



第12回 多摩川 子ども 環境シンポジウム

みんなの発表誌

令和元年12月7日(土)に、
フォレスト・イン昭和館(昭島市)で
発表された内容をまとめました。



美しい多摩川フォーラム

第12回 多摩川 子ども環境シンポジウム

開 会 挨 拶

ほそ の すけ ひろ

美しい多摩川フォーラム・会長 細野 助博



良い子の皆さんこんにちは。そして保護者の方々、ご苦労様です。「多摩川子ども環境シンポジウム」は、今年度で12回を迎えます。ずいぶん長くやってきましたが、私たちは「美しい多摩川100年プラン」として、活動を100年単位で考えておりますから、皆さんが私のようにおじいちゃん、おばあちゃんになった時にもこの活動は続いていると思いますので、今日はぜひ頑張ってもらいたいと思います。

さて、今年の秋、大災害をもたらした台風19号。多摩川はとても暴れました。昔、多摩川は「暴れ川」と言われていましたが、どうしてこうなったのでしょうか。「こんなにひどい台風は、もう何年も来ないだろう」と思う人がいるかも知れませんが、今後は毎年来るかもしれません。自然は私たちに恵みを与えてくれますが、私たちが良くないおこないをすると、時に暴れたりもします。

恐竜が好きな人はいますか？ 恐竜が地球の王者になっていた期間はどれくらいだと思いますか？ 実は1億5千万年も続いたのです。では、人間が地球の王者になって何年になると思いますか？ たったの1万年なのです。この、たった1万年の間に、人間は「地球温暖化」という問題を引き起こし、地球のリズムを壊しています。恐竜と人間とでは、どちらが賢いのでしょうか。このことを少し考えてもらいたいと思います。

今日、皆さんは、多摩川をテーマに自然の大切さや美しさ、楽しさを学んで発表してくれます。とても楽しみにしておりますので、皆さんぜひ頑張ってください。

目 次

◆開会挨拶	1
【第1部 発表会】	
発表①「多摩川イベントと自然災害」～青梅市立若草小学校～	2
発表②「川を調べる楽しさ」～立川市立第九小学校～	3
発表③「桜のチカラ」～国立市立国立第五小学校～	4
発表④「外来種と仲良くする方法」～学校法人和光学園 和光小学校・外来種フレンド～	5
発表⑤「浅川大好き！」～浅川潤徳水辺の楽校～	6
発表⑥「多摩川の川原で野鳥観察」～青梅市立河辺小学校～	7
◆特別講話「防災と水辺の安全について」	8
◆グランプリ・準グランプリ発表&表彰状授与式／閉会挨拶	9
◆【第2部 交流会】／第13回 多摩川 子ども環境シンポジウム 参加募集	10
◆会場アンケートの結果	11

※発表文の掲載にあたっては、できる限り発表者の表現を活かして編集しており、全体として必ずしも言葉の統一性は図られておりません。

総 合 司 会

学校法人明星学苑明星中学校 2年

おおわだ まひろ
大和田 真杏

本日の司会を担当します。
よろしくお願いします。



講 評

隅内教育研究所所長(元青梅市立友田小学校長)

すみうち としゆき
隅内 利之 さま

各団体の講評は
こちらです。



「多摩川イベントと自然災害」

～青梅市立若草小学校～

おお せ まち はる あき
青梅市 若草小学校 2年 大勢待 晴明



魚の手づかみ、さばいて、たべるイベント

ぼくがすんでいる近くの、たまがわのかわらで、「ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊」
“魚の手づかみ、さばいて、たべるイベント”がありました。（青梅市河辺町 2019年 8月25日（日））
山ちゃんという山ざきせんせいの「かみしばい」でイベントがはじまりました。

- ①たまがわの水があたたかくなっていること ②あぶらをながしに、ながさないこと
③トイレの水のせつやくに気をつけること をおしえてもらいました。

魚の手づかみ～魚をさばく～あらって、しおをふって、くしをさして、やく～たべる



魚をやいている
あいだに
ガサガサいけに行っ
ていきものとり方
をおしえてもらいま
した。



おいしかったので
2ひき、たべました。

- ・おたまじゃくし・みずかまきり
- ・しまどじょう(ぜつめつきぐしゅ)
- ・やご などをつかまえました。

たい風19号（2019年10月12～13日）のあと、同じ場所に行ってみました



- ・川がどろ水になっていて、ながれもはやかっただす。
- ・場しよがいちめん、どろだらけ。ぬるぬる。ふむと、くつにくつつく。
- ・すなだらけで、しょくぶつが、なくなっていました。
- ・うんちのにおいがしてくさかった。
- ・さかなもいなかった。



- ・おとうさんと、ちかくをあるきました。
がれきが、たくさんあって、どうろが、われていました。
テニスコートのとびらに草がついていました。
- ・このかわら、ぜんぶが水で、いっぱいになったと、
おとうさんがおしえてくれました。



「しぜんのたのしさと、しぜんのこわさ」川には、 いろんなことがあります

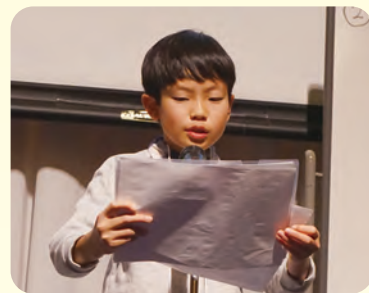
- ①川は、これからどうなるのかな。
- ②魚たちは、川にもどってくるのかな。
- ③また、たい風がきたらどうなるのかな。ということを思いました。

講評

大勢待君は実際に色々な体験をしています。初めての体験や自分の気持ちを発表してくれたところが良かったです。台風19号についても触れていましたが、素晴らしいのは、台風の後実際にその場所に行っているところです。今後はどうなるのだろうという疑問も発表してくれました。これからも、多摩川について調べて、色々な体験活動に参加してみてください。

「川を調べる楽しさ」

～立川市立第九小学校～

立川市 第九小学校 5年 ^{すが なお き} 須賀 直明

ぼくは、川を調べるのが好きです。なぜなら楽しいからです。

それは、川が色々なことにつながっていて川を調べていると今まで知らなかった事を知る事ができたり、考えるようになるからです。

川を本や地図で調べるとそれを確かめに行きたくなります。行くとさらに色々な発見があって疑問が浮かびます。さらに調べたくなります。

どんな事に川がつながっているかという主とに 5 個あります。

①地図 ②地いきの歴史 ③地形 ④環境 ⑤防災です。

ぼくが残堀川を調べた時の事を例にして話します。

残堀川は、ぼくの家近くの近くを流れている川で普段はほとんど水が流れていません。

最初は「この川は、どこから流れているんだろう。」と疑問に思い、「そこに行ってみよう。」と思いました。

遠くの山から流れ始めているのではないかと考えて地図で川を辿ってみると、瑞穂町の公園の池から流れていることが分かりました。

車で走ってみると、途中で急な坂などもなく川は町の中を走っていました。池は山奥ではなくて丘陵の麓にあり、住宅地の中でした。びっくりしました。

別の日に多摩川へ注ぐ所まで、今度は自転車で走りました。

地図を見ると、途中不自然に直角に曲がっている所があると分かりました。

川が直角に曲がっている所は、滝になっていました。でも、滝のよく見える場所はありませんでした。横の道は、すごい坂になっています。

滝の下には、他の川が合流していて上流より水がたくさん流れていました。滝の下の少し先までコンクリートの川底でしたが、その先は自然な川底になっていました。そして、カメや魚・鳥がたくさん見えました。ゴミもたくさん浮いていました。中でも



多く浮いていたゴミは、プラスチックのゴミでした。

後で川のゴミ拾いに参加しました。プラスチックや靴の底・ポールのような物などたくさんの種類のゴミが落ちていました。

滝の近くの坂道に山中坂の歌の歌碑を見つけました。後で調べて、立川で空襲があったことが分かり、立川空襲後の見学会に参加しました。

池から多摩川の合流地点まで、川の水が溢れないように深く掘られていました。途中で大きな調節池も最近つくられていました。

このように、約14.5kmのあまり長くない川を調べるだけでもたくさんの発見があり、とても楽しいので、ぜひ皆さんも身近にある川に関心を持ってください。

発表③



「桜のチカラ」

～国立市立国立第五小学校～

国立市 国立第五小学校 5年

ありいずみ あおい

有泉 葵

いちのへ さほ

一戸 咲穂

いわきり あおい

岩切 蒼依

かわはら せんか

河原 撰果

さとう たくみ

佐藤 匠

さとう りな

佐藤 里奈

みうら ゆな

三浦 祐菜

やまだ こうき

山田 康貴

わだ ののみ

和田 苺々実



私たちはこの地図の67番の場所に位置し、大学通りの桜で有名な国立市で育ちました。

今年は自然災害が多く発生し、千葉県、福島県などでは多くの被害がありました。私たちは新聞などの情報で「身近な多摩川」では、道路・橋の被害、さらにサッカー・野球グラウンド・河川じきは、大きな被害があり、日常生活にも影響していることを知りました。



そこで、この国立の自慢の桜をきっかけに、多摩川を元気にできないか考えました。

多摩川沿いの被害をまだ知らない人が多いと思うので、周辺の桜をきっかけに多摩川の事について関心を持ってほしいです。

自然災害を防ぐことはできないことが多いですが、その被害、現状については知ること、考えること、そして思いを持つことが大切だと思います。

まず、多摩川周辺に咲く桜と同じ、国立の桜を知ってもらい、桜の力で多摩川を元気にしたいです。

世界の人も、元気が湧いてくる花、毎年国立の町がピンクになると、みんな元気になります。

私たちも国立の桜を元気にしようと、1年生の頃から桜守活動で、桜に関わってきました。先輩たちもずっと長く取り組んできて、私たちも継続しています。

国立で一番幹回りが大きい桜は4mもあります。

このように、桜にかかわってみると、毎年咲いている桜の木の肥料や根の環境の大切さに気が付きました。



これからの多摩川

11月30日の新聞にも「気象は変えられないけど、自分たちの行動は変えられる」という、世界の若者の記事も見つけました。お店でもストローをやめたり、袋の削減をしたり取り組んでいます。

桜のチカラで、美しい多摩川を!!

多摩川流域にも植わっている桜のチカラで、多摩川に関心を持っていただき、今まで以上に元気になってほしいと願っています。

講評

桜がきれいに咲くというのは大事なことです。この発表では、桜を守るという活動を通して、環境や、桜に何が大事なのかを説明してくれました。この学校では桜を守る活動を伝統的に続けているようなので、今後は桜の種類についても調べてみると良いと思います。素晴らしい発表でした。

「外来種と仲良くする方法」

～学校法人和光学園 和光小学校・外来種フレンド～

世田谷区 和光小学校 4年

浦野 瑛仁 真田 日向 須賀 旬彌 濱田 暖



和光小学校では、4年生になると多摩川学習をします。

ぼくたちのグループは、外来種について調べることにしました。学校だけでなく、資料館に行ったりインタビューをして調べたことを発表します。

なぜ、外来種を調べようと思ったかということ、外来種のことは知っていたけど、まだ知らない外来種がたくさんいるかもしれない、外来種によって日本がどういう影響を受けているのかなど、気になるので調べることにしました。

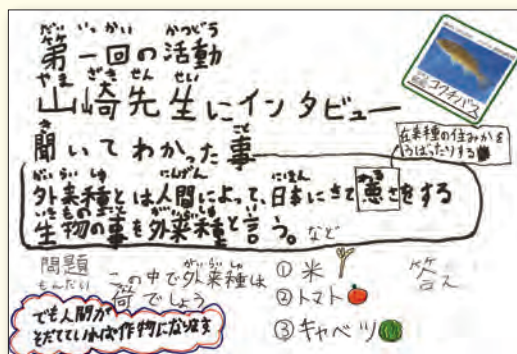
第一回の活動 山崎先生にインタビュー

インタビューしてわかったこと

外来種とは人間によって、日本にきて悪さをする生物のことを
外来種という など（悪さ＝在来種のすみかをうばったりする）

外来種による被害

- ①在来種が食べられる
- ②在来種のえさがうばわれる
- ③植物の芽を食べてしまい農業に被害が出ている
- ④毒があり、人にも影響が出る
- ⑤在来種と交雑して雑種を作ってしまう



答え 全部

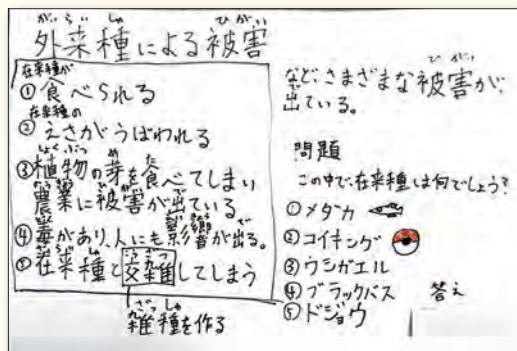
第二回の活動 調布市多摩川自然情報館

外来種の種類は、なんと約1000種！中でも特に日本の生態系に影響を与えている外来種のことを「特定外来種」という。

第三回の活動 調布市多摩川自然情報館

外来種の種類を調べました。

- ①外来種
 - ②生態系被害防止外来種 これは5つに分かれる
 - (1) 定着予防外来種 (2) 総合対策外来種 (3) 要注意外来種
 - (4) 特定外来種 (5) 産業管理外来種
- また、日本の中でも、ちがう川から来た魚は国内外来種という。

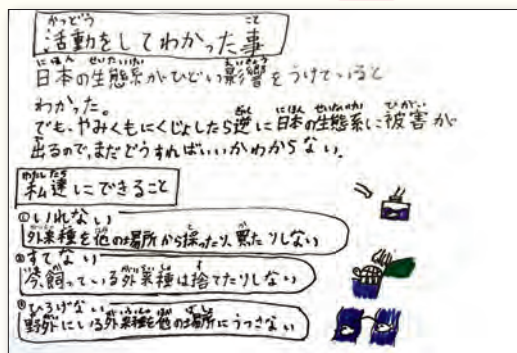


答え ドジョウ

私たちにできること

- ①いれない……外来種を他の場所から採ったり、買ったりしない
- ②すてない……今、飼っている外来種は捨てたりしない
- ③ひろげない……野外にいる外来種を他の場所にうつさない

これからも、外来種と在来種が仲よくできるように、この3つを守りながら、多摩川的环境を考えていきたいと思います。



会場からの質問 「産業管理外来種とはどんなものですか？」

答え 「アライグマなどで、農業なのに被害が出ている外来種のことです。」

講評

普通、外来種というと、私はアライグマを思い浮かべてしまいましたが、発表の冒頭で「外来種とは」と定義付けして調べてくれました。私が特にビックリしたのは、外来種の種類がいっぱいあるということです。種類について難しい言葉が沢山出てきましたが、時間が限られて説明しきれなかったと思うので、今度はその部分を中心に調べてみると面白いかもしれません。良く調べた発表でした。



「浅川大好き!!」

～浅川潤徳水辺の楽校～

日野市 潤徳小学校 6年 ^{しお たに めぐみ} 塩谷 恵

5年 ^{あきやま え み な} 秋山 恵美菜 4年 ^{おお わだ ま こ} 大和田 眞瑚

5年 ^{いしもと ゆ あ} 石本 結愛 4年 ^{ほそ だ み の り} 細田 稔里 3年 ^{すず き み ゆう} 鈴木 心優 3年 ^{まつ お よし かず} 松尾 佳和

5年 ^{ほし ひ ま り} 星 日茉理 3年 ^{こまつ れ な} 小松 麗夏 3年 ^{すなはら れ あ} 砂原 玲亜 3年 ^{ゆ あ さ も も こ} 湯浅 桃子



ねえねえ、水辺（みずべ）の楽校（がっこう）って知ってる？毎月1回くらい、土日になにかやってるって聞いたんだけど…。

知ってるよ！浅川や向島用水で思いっきり遊んだり、昆虫を捕まえたりする活動のことだよな！

そうなんだ！楽しそうじゃん！よかったらもう少し詳しく教えてくれる？

水辺の楽校（がっこう）の「楽（がく）」は楽しい「楽（らく）」で、水辺の楽校（がっこう）っていうんだ！毎月活動があって、色んな自然体験をすることができるんだよ。潤徳小でも、生活科や理科で実際に浅川やトンボ池へ実際に行って勉強するよね。それに似てるよ！ちなみにね、東京では、多摩川と関係のある川を中心に、今では20校の水辺の楽校があるんだよ！

へ～！いろんな場所で活動が行われてるんだ。

毎年5年生は、地域の方の田んぼを借りて、水辺の楽校の皆さんから米づくりについて教えてもらい、米づくりの体験をさせてもらっているんだよ。

知ってる知ってる！5年生の友達が最近水車を使って精米体験をしたって聞いたよ。そういえば、水車小屋の水車が今年から回り始めたよね。



私たちの水辺の楽校の取り組みについて紹介します。

4月は、毎年、多摩川・浅川クリーン作戦

5月には、浅川で昔遊び

普段の遊びではできない遊びに夢中になりました。

***その時の感想を、3年生の鈴木さんが作文で紹介。**

6月は、身近な水環境の一斉調査

8月は、浅川ドボンです。毎年、ふれあい橋の近くで、ライフジャケットを着て水遊びをします。普段は川で遊んではいけないけど、この日だけは地域の人たちが見守ってくれる特別な日です。色んな遊びができて、浅川が大好きになりました。

9月は、バッタ取りと植物観察

***浅川ドボンを劇で表現しました→**

11月は、日野市の地域清掃に参加

1月は、どんど焼きを行います。どんど焼きとは、小正月に行う火祭りのことで、門松・竹・しめなわを集めて焚きます。

3月は、浅川で野鳥観察をする予定です。毎年、サギやチョウゲンボウを見つけます。日野市の鳥、カワセミがいたらとっても嬉しいです。

5年生は、これまで紹介した活動だけでなく、総合的な学習の時間に米づくりを通して、水辺の楽校の方々と深く関わっています。

***田植えを体験して学んだことを、5年生秋山さんが発表。**

***脱穀の様子→**

私たちが楽しく活動できるのは、企画をしてくださった水辺の楽校の方々、協力いただいたの方々のおかげです。これからも水辺の楽校で学んだことを活かして、美しい自然を未来に残していきたいと思います。





「多摩川の川原で野鳥観察」

～青梅市立河辺小学校～

青梅市 河辺小学校 6年 ^{まる やま ゆう き}丸山 友希

4年 ^{まる やま ひろ き}丸山 大希



私たちが通う河辺小学校は、多摩川から500メートルのところにあります。とても身近なところに多摩川があり、校歌の中にも登場します。

2020年は創立50周年を迎えます。そんな河辺小学校ですが、2007年に「東京都の愛鳥モデル校」に指定され、野鳥に親しむ活動をしています。

学校には、上りながら野鳥の名前が覚えられる階段があり、野鳥の写真と名前が貼られています。



野鳥に親しむ具体的な活動内容・特色を紹介します。

- 1つ目は、多摩川の川原で野鳥観察をする授業があることです。

日本野鳥の会 奥多摩支部の方が来られて色々と教えてくださいます。

- 2つ目は、愛鳥博士テストです。

鳥の名前や特徴を覚えて、愛鳥博士を目指す取り組みで、学期毎に一度テストがあり、合格すると称号がもらえます。この時、賞状やバッジがもらえるのでみんな頑張っています。

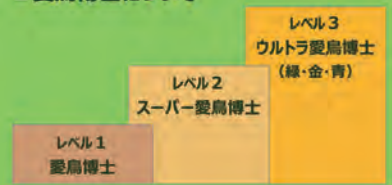
愛鳥博士にはレベルが3つあります。

レベル1：写真を見て鳥の名前が分かる児童には「愛鳥博士」

レベル2：鳴き声だけで分かる児童には「スーパー愛鳥博士」

レベル3：特徴を書いた文字を読んでわかる児童には「ウルトラ愛鳥博士」の称号が与えられます。

■愛鳥博士について



*第10代校長の矢根先生の本から出題→



*ウルトラ愛鳥博士は3部門に分かれていて、すべて合格するのはとても難しい。

■ウルトラ愛鳥博士になるために

- ・専門用語の読み方、意味を辞書やネットで調査
- ・習っていない漢字に読み方を書いたカルタを作成（約100羽）
- ・家族で「ウルトラ愛鳥博士カルタ」遊び



頭に叩き込み、ついに3部門すべて合格！

3部門すべての合格者は、私たちを含めてまだ三人しかいません。

「愛鳥博士」としての活動

- ・学校の授業だけでなく、おうめ環境フェスタなどの野鳥観察会に積極的に参加しています。
 - ・大きさや色、鳴き声、歩き方、飛び方、場所、季節などで私たちも野鳥の種類を判断しています。
- 日本野鳥の会の方に「河辺小学校の愛鳥博士がいると助かるなあ」とほめられると、とてもうれしいです。

*最後に、「愛鳥博士テストにチャレンジ」や「野鳥マメ知識」で会場が盛り上がりしました。



講評

現職で亡くなられた矢根校長先生の始めたことが、しっかりと根付いていることに素晴らしいと感じましたし、知っている野鳥の数がとても多くてビックリしました。ウルトラ愛鳥博士になるのはかなり難しいと思います。知るということが発展に繋がるので、これからも続けてもらいたいです。矢根校長先生もお喜びになっているのではないのでしょうか。素晴らしい発表でした。

特別講話 「防災と水辺の安全について」

やま さき みつ あき

美しい多摩川フォーラム・教育文化副部長 山崎 充哲

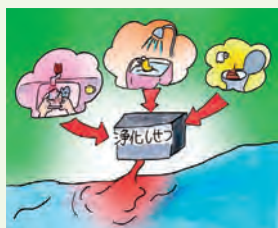


私は、年間 300 日前後、多摩川へ出かけて生き物を観察したり、川の流れを観察したり水質を見たりしています。いつもは外来種とか在来種とか、多摩川の色々なお話をしていますが、今日は

ちょっと違います。今年の台風 19 号の大増水はかなり大きな影響を与えましたが、みなさんがこれからどうやって多摩川と付き合ったらいいのかというお話をさせていただきます。

その前に、多摩川は、みなさんのご家庭から出てきた水でできています。例えばお風呂の温かいお湯は、できれば一晩冷ましてから洗濯に使うと川の水の温暖化が防げます。台所は毎日のことなので、ちょっとした心づかいをしてもらいたいです。お皿の油汚れは、ボロ布や古新聞で拭き取り、燃えるごみに捨てる。洗剤をたくさん使って水に流さないでください。それだけで多摩川は綺麗になります。そしてトイレは、排泄物を流す時にコックに大と小があれば使い分けてくださいね。

このよう(右図)に、浄化施設で綺麗になった水は多摩川へ放流されます。皆さんの体の中を通った後の水で多摩川はできている、多摩川の源流はみなさんの家の蛇口だと思ってください。私は川崎に住んでいます。川崎を流れている多摩川の水の 7 割は下水処理水なのです。



さて、今年の雨はすごかったですね。でも、過去にもすごいことがあったんです。昭和 49 年 9 月粕江の大水害です。「二ヶ領宿河原堰」という小さなダムにおつかった水が、横に流れて家をも流していきました。

右の写真は、「二ヶ領宿河原堰」です。今は綺麗な堰に付け替えられていますが、今後も安全かどうかはわかりません。この堰、100 年は大丈夫という設計で造られたのですが、今年きた水害が 100 年レベルといわれていますから、再び氾濫することも考えられます。

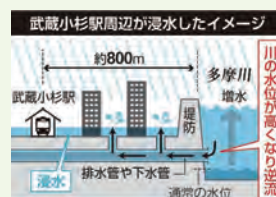


右の図は「霞堤(かすみでい)」といいます。大昔からある構造で、武田信玄が釜無川(かまなしかわ)を治水するために考案したと言われています。支流の「へち」を遊水地のように使い、本流の水を少しでも減らすという仕組みです。2019 年の台風では、支流が流れ込むところで多摩川が増水し、この支流に溢れ出しました。二子玉川の駅前「兵庫島」近辺も「霞堤」と同じように本流よりも低いので、溢れた水が駅前の方に流れ出てしまいました。



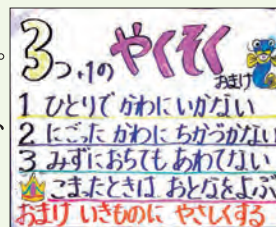
さらに「武蔵溝の口」の辺りは、氾濫しやすい地形です。多摩川の水が増えると、水門から逆流した水が遙か遠く「武蔵小杉駅」の方のマンホールから吹き出してしまったのです。そうして「内水氾濫」が起きました。

右の図は、実際とは少しだけ違います。これだと排泄物がそのまま川に流れていることになっていますが、別にある污水管にも雨水が流れ込み、この辺りは排泄物だらけになってしまったというのが実情です。



さて、こういう時はどうするか、避難情報が出ていればどこか高台へ逃げましょう。間に合わない時は、上に逃げましょう。ハザードマップを見ていただければ、わかると思います。地域によっては電柱にしろしをつけている所もあります。近所のマンションへでもいいので、逃げ込める場所を普段から考えておいてください。

さて、避難の時ですが、川遊びに行く時と同じです。サンダルでいかない。なぜならサンダルは簡単に脱げてしまうからです。では、洪水時に逃げる時は何が一番いいか。長靴もダメです。長靴は水が入ると重くて歩けません。水の中を歩くには、履きなれたスニーカーが一番です。万が一濡れてしまったら、その時は浮いていてください。でも、訓練していてもただ浮いているだけなんて無理です。では、どうしたらいいかな? そう、ライフジャケットです。大人は腰の深さで歩けても、子どもには無理です。そんな時、子どもの背中を掴みひっぱって歩けるように、ライフジャケットがあればすごく安心です。普段からライフジャケットを使った体験をしておく、川に慣れておく、水を怖がらない、いざという時には逃げられる準備をしておきましょう。



さあ、これはいつものお約束です。

1 目、一人で川に行ってはいけません。誰と行くか、どこへ行くか、いつ帰ってくるのか、必ず保護者の方に伝えてから出かけましょう。

2 目、濁った川に近づかない。

濁った川は深さがわかりません。とても怖いのです。特に台風の後には、川底がえぐられて、今まで浅かったところが急に深くなっています。濁った川には近づかないでください。

3 目、水に落ちても慌てないこと。茶色く濁って排泄物の臭いがする川に飛び込むには勇気が必要ですが、何よりも命が大事です。慌てずにゆっくりと、濁った水だろうが排泄物の臭いがしようが、魚が飛び跳ねていようが、とにかく高いところへ逃げてください。

最後に大事なこと、生き物にやさしくすることです。色々な生き物がいますが、在来種も外来種も生き物に変わりはありません。命は一つしかありません。外来種の命も大事にしてあげてください。

しかし、持って帰ると怒られる外来種もいます。逃がすべきか食べるべきか考えましょう。無駄に命を奪ってゴミ箱に捨てるようなことはしないでください。外来種だからといって殺されても良い命はありません。犬や猫も稲もトマトも多くが外来種です。犬や猫はペットです。お米もトマトも作物です。人の都合で日本の自然を壊さないよう、仲良く付き合うことが大切です。人間も同じで外国から来たお友だちも仲間です。地球にいるみんなを仲間だと思って、仲良く共存できるといいですね。

グランプリ・準グランプリ発表&表彰状授与式



グランプリ

「多摩川の川原で野鳥観察」
青梅市・河辺小学校



準グランプリ

「外来種と仲良くする方法」
世田谷区・和光小学校・外来種フレンド



審査員特別賞

「川を調べる楽しさ」
立川市・第九小学校



閉会挨拶

ひら おか はる ふさ

美しい多摩川フォーラム・副会長 平岡 治房



今日は、皆さんの素晴らしい発表を聞かせてくれて本当に有り難う。おじさんたちにとって、初めて聞くことも沢山あって、とても勉強になりました。また、保護者の皆さま、朝早くから有り難うございました。美しい多摩川フォーラムの「多摩川子ども環境シンポジウム」は、今回で第12回目を迎えました。ということは、12年前に始まったのですが、皆さんの中にはまだ生まれていなかった人もいるのかなと思います。それだけ長く、この会は続いています。

また、はじめに細野会長から「美しい多摩川100年プラン」についてお話がありましたように、私たちの活動は100年間続きますので、この「多摩川子ども環境シンポジウム」もまだまだ始まったばかりです。これからも、色々なことを多摩川で見つけて、ぜひここで発表して私たちに教えてください。今日は、リハーサルそして本番と、本当にお疲れ様でした。有り難う！

第2部 【交流会】

山崎教育文化副部会長の挨拶で第2部の交流会がスタート。
お菓子とジュースで、仲間や他のグループとの交流を楽しんでいました。



最後に笹木アドバイザーから閉会の挨拶があり、今回の「第12回・多摩川子ども環境シンポジウム」は無事終了となりました。

第13回

多摩川子ども環境シンポジウム

参加募集

令和2年12月5日(土) 14:00～16:30

【昭島市】フォレスト・イン昭和館 JR青梅線「昭島駅」より徒歩7分。
無料送迎バスあり。
学んだことや調べたことを自由に発表してください。

募集要項

- 参加資格は原則として多摩川流域在住の小学生～中学生。クラスやグループ、個人でもかまいません。多摩川や地元のことをもっと知りたい子どもたち大歓迎！
- お申込み先着12組。(募集期間：9月2日～11月15日締切)
- 多摩川流域の自然や環境、郷土の歴史や文化などを題材にテーマを決め、「なぜそのテーマにしたのか、どんなことを調べたのか、調べたことでどんなことがわかったのか、そして自分がどう変わったのか」などを発表してください。
- 発表方法は、もぞうし、作文、パソコン(パワーポイント)、寸劇、歌など自由です。
- 表彰は、グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞の3つです。発表者と審査員の投票で決定します。なお、表彰とは別に、発表者全員の講評を予定しています。発表内容は、「みんなの発表誌」に掲載します。
- 参加費無料

特典

- 参加経費として発表1組あたり5千円を支給！
- 発表者全員に、すてきな記念品をプレゼント！
- グランプリ、準グランプリにはトロフィー、審査員特別賞には豪華な盾を授与します！
- 発表終了後、ジュースとお菓子が用意された交流会に参加！
- 発表内容を「みんなの発表誌」に取りまとめ、後日発表者全員にプレゼント！

お問合せ・申込み・連絡先

美しい多摩川フォーラム事務局

〒198-8722 東京都青梅市勝沼3-65(青梅信用金庫 地域貢献部内)

●TEL:0428-24-5632 ●FAX:0428-24-4650
●Email:forum@tama-river.jp ●URL:http://www.tama-river.jp



会場アンケートの結果

■回答者

性別	男		女		不詳		合計	
人数(構成比%)	27	87.1%	4	12.9%	0	0.0%	31	100%

年齢別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代~	合計
人数	4	1	11	11	0	3	1	31
構成比%	12.9%	3.2%	35.5%	35.5%	0.0%	9.7%	3.2%	100%

住所別人数	青梅市	日野市	入間市	世田谷区	あきる野市	横浜市	大田区	国立市
	8	4	3	2	2	2	1	1
国分寺市	小平市	昭島市	福生市	上尾市	飯能市	東村山市	不明	合計
1	1	1	1	1	1	1	1	31

■発表を聞いて何が学べて、どんな感想を持ちましたか？

- 水辺の楽校が多くあることを知り驚いた。野鳥観察の楽しさを知った。自分もやってみたい。台風の影響を調べて発表しようという、興味を持つ姿勢が素晴らしい。
- 子どもたちが興味を持っていることが良く分かった。また、台風の被害、桜、野鳥と、大人が聞いても為になる内容だった。
- 子どもたち自身が興味を持ったことを調べ、考察している姿を見て、とても小学生とは思えないと驚いた。近年、自然と関わる事業が減っていく中で、子どもたちが一年を通して、または、学校内でイベントを行っていることは素晴らしいと感じた。
- 学校内での取り組み(階段で野鳥の名前を覚えられる工夫、野鳥観察の授業、愛鳥博士のテストシステム、愛鳥博士カルタ)等が、自分の母校とは全く違う取り組みで驚いた。学校独自のカリキュラムがあることの大切さを感じた。
- 川に関することや生き物の大切さを実感した。今日参加したことで、野鳥の名前を覚えることができた。
- 大変良かった。
- 野鳥に興味をわいた。
- 多摩川が地域の方々に愛されていることが分かった。子どもたちが詳しく調べて発表していたのが良かった。
- 残堀川の発表をした小学生は、将来良い研究者になりそうだ。どれも興味深く楽しかった。
- これからも自然について学んでほしい。
- 野鳥に興味を持てた。
- 自然災害はタイムリーでとても興味深かった。小学2年生なのに凄い。勉強になった。
- 野鳥が多摩川に沢山いることは知らなかった。詳細に調べていて、良い参加型の発表だった。
- 環境保護の大切さを改めて感じた。野鳥も覚えて自然に深く関わりたいと思った。
- 残堀川最高!ただし、発表数が減ったのは残念だ。
- 全ての発表が良く調べられていて素晴らしい。勉強になった。皆さんの多摩川を想う気持ちが伝わった。
- 外来種が在来種へ与える影響について考えさせられた。飼う時は良いが、その生物の一生を世話し、川や池に放流してはいけないことをもっとPRしてほしい。
- 野鳥に興味を持ち、鳥の特徴を把握し、努力して全ての博士を合格した姉弟に感銘を受けた。
- 外来種といっても様々な種類があると知り、勉強になった。自ら調べ、まとめ、発表する力は大変素晴らしいので今後も続けてほしい。伸びしろが多く、感動した。
- 多摩川に関して、こんなにも沢山のことが関連していることを学べた。どの発表も良く調べていて、堂々とした発表で感動しきりだった。とても素晴らしいかった。
- 台風による災害を知ることができた。台風が来る前と後の写真を比較することで、災害の大きさがより伝わった。毎年、国立の大学通りに桜を見に行っている。桜の素晴らしさも改めて感じた。
- どの発表も良く調べていて、一生懸命に発表していてとても良かった。
- 良く調べて良い発表だった。
- 改めて、多摩川は大切なんだと感じた。

■興味をもった発表は何ですか？(いくつでも)

	回答者数	全体比
①多摩川イベントと自然災害	13人	16.5%
②川を調べる楽しさ	9人	11.4%
③桜のチカラ	11人	13.9%
④外来種と仲良くする方法	13人	16.5%
⑤浅川大好き!	12人	15.2%
⑥多摩川の川原で野鳥観察	21人	26.5%

■次回は自分も発表したいですか？

	回答者数	構成比
●発表したい	1人	3.2%
●発表はしたくないが参加したい	10人	32.3%
●参加しない	3人	9.7%
●周囲の人に参加・発表をすすめたい	12人	38.7%
●不詳	5人	16.1%

■一昨年よりグランプリ・準グランプリ等を設け、また今年から審査講評を復活させましたが、表彰の方法やあり方等について、ご感想やご意見があれば、自由にお書きください。

- 一生懸命発表した子どもたちの講評があるのはとても良い。グランプリ・準グランプリを設けたほうが、やりがいに繋がるのではないかな。
- 競うこと、評価することはとても良いことだと思う。次に頑張る目標にもなるから。
- 賞を設けることで、子どもたちがやる気を持つことができるようになったと思う。また、講評を行うことで、賞をもらえなかったグループも「やって良かった。またやりたい」と思えるので、大切だと思う。
- グランプリ等の区別は考え物だと思う。以前のように、参加賞等の表彰に止めてはいかがだろうか。
- 大変良かったと思う。
- 講評は要らない。グランプリ等の表彰を設けるのであれば、参加している全組に何かしらの賞を与えても良いと思う。
- 全員に賞をあげたい。
- 表彰はあったほうが良いと思う。
- 今年の方法が良いと思う。
- 講評があると発表しがいもあるし、振り返りもできて良い。
- 全員に何かしらの賞があると良いと思う。
- 今の内容で良いと思う。

■その他のご意見・ご感想

- 山崎さんの特別講演は勉強になった。面白かったし、為になった。
- 毎年、このシンポジウムを続け、自然を大切に子どもたちを育てて世の中に発信し続けていることに敬意を表します。いつも有り難うございます。

